

# 研究部ニュース 2021年度第3号

2022年3月3日(木)

発行者：研究部(小森、大原、大河、松田、石橋、岡、的場)

平素は本校の教育及び研究活動にご協力いただきありがとうございます。今年度は3つの発表会があり、本校の研究活動が活気あふれる1年間となりました。今回の研究部ニュースでは、二つの研究発表会での様子と、学部研究の取り組みの成果をお伝えします。

## 本校研究主題(学部研究)

### 知的障害教育におけるカリキュラム・マネジメントの運用と キャリア教育の推進(最終年度)

令和元年度より3年計画で取り組んだこの研究は、学校全体の教育活動に大きく関わる内容でした。令和4年度より新しい学習指導要領がすべての学校種で完全実施となるのを前に、新しい内容に沿ったカリキュラム(教育課程)を構築することができました。特別支援教育の目的とキャリア教育の定義には通じるものがあり、キャリア教育を主軸としたカリキュラム・マネジメントを行った結果、学校全体と各学部、各授業のつながりが明確となり12年間の一貫した教育課程の一つのモデルを作るに至りました。

本校のこれまでの取り組みを整理することから本研究は始まりました。1年目には学部目標と各学部の教育課程の見直しを行い、キャリア教育の指標としての「キャリア・マトリックス」の作成をし、2年目からは設定した目標と教育課程を実践し、評価をすることを行いました。

キャリア教育は「学校のすべての教育活動を通して推進」(文部科学省2011)されるべきとされています。今年度の研究では、すべての授業で

キャリア教育の観点での目標を立て授業を行いました。研究授業として、小学部は学校教育における学びの基礎である科目の「国語」と「算数」を、中学部は集団の中で社会性を育むという中学部の学部目標にも通ずる「特別活動」を、高等部は社会的・職業的自立を意識した授業である「キャリア」と週単位の帯状で設定した「国語」の授業を抽出し、各学部の教員で話し合い、実践をしました。



小学部「算数」



中学部「特別活動」



高等部「キャリアC」

また、研究初年度に作成した「キャリア・マトリックス」の見直しも行いました。改訂のポイントは、より一人ひとりに活用しやすくするために、学部ではなく6つのステップにわけたことと、より本校の児童生徒の実態に合わせるために、実際に授業ごとに立てて使用したキャリア教育の観点の目標を取り入れたことです。今年度の研究実践を通し、本校の児童生徒の現在の姿から作成した「キャリア・マトリックス」とすることができました。「キャリア・マトリックス」は教育課程と同様に、子どもたちの実態に即したのものになるよう、見直しながらか活用していきたいと考えています。

児童生徒の一人ひとりの姿を同じ視点でとらえることで、12年間の一貫した教育につなげることができました。今回の研究成果を基によりよい教育を提供できるよう努めてまいります。

教大協・近附連研究会

12月24日(金)



## 5つのユニット研究の発表



令和3年12月24日(金)に日本教育大学協会附属特別支援教育部門近畿地区研究集会および近畿地区附属学校連盟特別支援教育部会の合同実践研究会として、ユニット毎に研究の発表をオンラインにて行いました。同時に、7つの自由課題研究については、HPに資料を掲載してのオンデマンドポスターセッションという形での発表を行いました。ユニット研究は3年間のまとめとして以下の5つのユニットが発表をしました。各ユニットの詳しい研究内容については研究部ニュース第2号に掲載しています。

研究テーマ	共同研究者
知的障害特別支援教育における 感覚情報を活用した運動学習	本学特別支援教育部門 特任准教授 大内田 裕 筑波大学附属桐が丘特別支援学校 教諭 岩井 俊夫
知的障害のある子どもへの読み書き指導	関西大学非常勤講師 本校 相談・支援センターアドバイザー 森田 安徳
インクルーシブ教育の現状と課題	本学特別支援教育部門 教授 富永 光昭
本学美術・書道部門と連携した 土粘土を用いた造形活動の展開	本学美術・書道教育部門 教授 加藤 可奈衛 本学美術・書道教育部門 特任准教授 谷村 さくら 本学美術・書道教育部門 非常勤講師 青木 宏子
知的障害特別支援学校における プログラミング学習を活用した論理的思考の育成	本学教育イノベーションデザインセンター 教授 仲矢 史雄 堺市教育委員会事務局 学校教育部支援教育課 指導主事 松本 将孝

各ユニットの発表毎に、共同研究者が指導助言や講評を行い、発表の内容を深めました。今回は、滋賀大学、京都教育大学、大阪教育大学、神戸大学、奈良教育大学、和歌山大学、兵庫教育大学など、多様な附属学校より参加をいただきました。

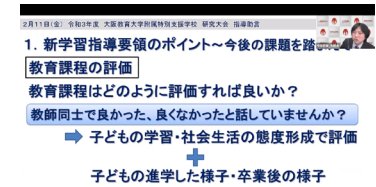
次年度以降、よりテーマを深めたり、新たな課題に対してテーマを定めたりして、研究に邁進をしてまいります。

## 研究大会のご報告 2月11日(金)

昨年度の実践報告会に引き続き、Zoomによるオンライン方式にて研究大会を行いました。参会者の中には沖縄の方もおられ、全国からの参加がありました。須田校長の挨拶に始まり、本校からの発表は事前に録画した動画配信の形で行いました。



本校からの発表後は、本学特別支援教育部門の今枝史雄先生からの指導助言、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課の加藤宏昭特別支援教育調査官より、記念講演と本校の研究への指導助言を賜りました。その中で、今回の研究で学部目標と教育課程の見直しを行い、12年間を見通した「キャリア・マトリックス」を作成したこと、そして、研究主題であったカリキュラム・マネジメントの運用の進め方を各校で参考として取り組んでほしいとのご講評をいただきました。今後、本校に期待することも合わせて提示していただき、よりよい教育に向けて邁進する決意を新たに持つことができました。また、昨年度の実践報告会同様、ユニット研究・自由課題研究についてはホームページ上でオンデマンドポスターセッションを行いました。



次年度からは新しい研究テーマでの取り組みが始まります。来年度、本校主催の研究発表会の予定はありませんが、11月に平野五校園共同研究発表会が予定されております。

今年度も本校の教育ならびに研究活動にご理解・ご協力をいただき、深くお礼申し上げます。次年度もよろしくお願ひいたします。

